

# 第15回 ことう地域チームケア研究会



くすのきセンター

1階 研修室

平成27年7月9日(木)

# 交流会

- 講演を聞いた感想・もっと知りたいこと
  - 自分の職種では何ができるか など
- ❁ グループ発表後は、自己紹介タイムです。

- ・在宅と病院の経験があるDrが居てくれることは、彦根の発展につながる、希望が持てる
- ・かかりつけ医との連携に訪問看護が重要
- ・かかりつけ医を選ぶときはどうする？色々な医療機関にかかっておられる患者さんも、、、

## ①病院と開業医の連携

互いに実情を知らないのではないか、互いの働きが分かるとよりよい連携につながるのではないか

## ②CMとDrの連携

CMは医師に対して「敷居が高い」と感じる部分がある

CMはDrから何を期待されているのか、求められているのか

義歯を使用されている方の洗浄が重要、誤嚥性肺炎の予防などについて、CMと歯科の連携もとっていければいいと思う。

## ③MSWと地域の連携

職種が多岐にわたる、それぞれが専門性を持って関わっているが、却って細分化のためCMとDrが話をする機会がなくなってしまうこともあるのではないか。互いに遠慮せず、話ができるようになるとうい。

- ・日中の往診ができるのは訪問看護のおかげ
- ・顔の見える関係性が重要
- ・介護保険などの連携のシステムが分かりにくい、医師会に対して説明をしてもらえるとよいのでは。
- ・歯科も訪問をする機会が増えてきている
- ・病気を治すだけでなく、どのような生き方をしたいか、どう寄り添うか、周りに気を使い本音を出せない現状もあるかも。
- ・行政も家庭に入って、現状を確認していくことが重要か

- 家庭環境・家族関係など、在宅で過ごせない事情があることもある。
- 本人の配偶者や孫、そういった支えがあると心強い
- 患者が亡くなられた時、どんなことをしていても、家族は後悔されるだろう
- 訪問看護の人員が少ないのではないか、負担が大きい。
- SWがしっかり話を聞いてくれる

- ・在宅ケアを進めていく中での課題を話し合った  
在宅は24時間365日、病院が夜間や週末に急変された場合の対応が、どれだけ柔軟にできるかが課題
- ・訪問診療をされるDr、患者さんがどうなりたいと思っているのか、その目標を見つけ出し、どう支えていくかが大事。その希望も状態とともに変化していくのでそれに寄り添う
- ・住民も、どういう風に療養を受けるといいか、イメージがつきにくい、そのための啓発が必要ではないか

- ・生活を支える、人生を支えることの大切さ
- ・褥そうを治すだけでなく、生活に寄り添うことに感動した
- ・シーツなど、在宅で準備可能な物品などの情報交換も大切
- ・ご家族は看取りになかなかイメージがつかないことも、決断ができるご家族は少ない、そういう時に自分たちが決断の支援ができればいいと思った。
- ・病院から退院後の様子について、CMさんなど関係者から情報をいただきたい(病院関係者)。
- ・在宅でのお付き合いが最近始まって、悩むこともあるが、多職種やご家族の話を聞いて勉強している(歯科医)
- ・CMからカンファレンス開催の提案をしても、なかなかつながらないこともある。



- ・他職種から意見をもらい話し合うことで、在宅支援の役に立つ
- ・理想と現実の違いに向き合うこともある
- ・家族のサポートが難しい
- ・病院から在宅も難しいが、開業医から病院も難しい。本人が本当に望んでいることを確認できてるか？
- ・どうやって本人の意向を確認するか。その方の生活歴を家族さんと確認しあいながら本人の意思を確認した時、本人がうなずいてくれたことがあった

- ・サ高住の方。褥そうはホームヘルパーでは処置ができなかった。家族が近くにいればよかったが。
- ・Drが傷だけではなく、人生を見てくれるのがうれしかった
- ・往診は必要だが、Drの負担も心配
- ・SWやCMの仕事はなかなか家族に見えない
- ・SW、退院調整、お互いに顔の見える関係を作れる場が重要だと思った